

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国語	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	文学国語	担当者	田口 耕平		
使用教材	文学国語(東京書籍)				
	セレクト漢字検定(桐原書店)、カラー版新国語便覧(第一学習社)				
学習目標	1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。				
	2 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。				
	3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
学習方法	1 本文を声に出してスムーズに読めるように練習する。筆者が文章によって何を伝えようとしているかを的確に捉えられるように、要約に取り組む。分からない語句は自分で調べる習慣を付ける。				
	2 板書は正確・丁寧に写し、板書事項以外にも大切な点はノートに書き留めるようにする。自分なりの意見を持ち、それを条件(時間や時数)に合わせて発表したり、文章にまとめたりする。				
	3 漢字や語彙の小テストを頻繁に行うので、日頃から漢字の読み書きの練習や語彙問題の練習に取り組むこと。その際には、見間違いや書き間違いのないように丁寧に練習すること。				
必ず取り組む最小目標	・要約やレポートなどの課題を提出する。 ・漢字の50問テストなど、小テストで合格点がとれるように勉強する。。				
実現したいと思う最大目標	・本文を執筆した筆者の主張やテーマを的確に捉えるとともに、自分の身近なことにおい換えなら、自分なりの意見や考えを持つ。				
評価の方法及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・休み明けテスト ・小テスト	・定期考査 ・提出された課題の内容	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	実社会に必要な国語の知識や技能を十分身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させている。	
	B	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしている。	
	C	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けていない。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしていな	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させようとしていない。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	国語		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	古典探究		担当者	坂口 英樹、 田中 美佐枝		
使用教材	新編古典探究(東京書籍)、カラー版新国語便覧(第一学習社) 体系古典文法九訂版(数研出版)、古文単語330(文英堂)、漢文必携五定番訂版(桐原書店)					
学習目標	【知識及び技術】 1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。					
	【思考力, 判断力, 表現力等】 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方, 感じ方, 考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。					
	【字ひに同かう力, 人間性等】 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う					
学習方法	古文	・本文をスムーズに読めるように繰り返し音読する。 ・重要な文法事項や古文単語について理解する。 ・本文の内容を大まかに理解する。				
	漢文	・漢文を返り点等に注意しながら、スムーズに読めるように、繰り返し音読する。 ・句形や漢文特有の意味や働きを持つ漢字について理解する。 ・本文の内容を大まかに理解する。				
	共通	・その文章が書かれた時代背景を理解するとともに、文学史の流れやそれに付随する知識を習得する。				
必ず取り組む最小目標	・授業で取り扱う古文や漢文の内容を把握する。 ・古文における最低限の文法的な知識を理解する。 ・漢文における特定の漢字「(例)不・未・如・見・使など」の知識を理解する。					
実現したいと思う最大目標	・高校において古典(古文・漢文)を学ぶ意義を自分なりに考え、言葉として表現することができる。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・授業プリントの理解状況 ・小テスト等の結果		・定期考査 ・提出された課題の内容		・課題提出状況 ・授業に取り組む意欲
	A	・本文中の古文重要語句や用法を理解し、さらに本文で使用されている以外の別の意味や使われ方の知識を得ている。 ・文章の展開の仕方について理解し、説明している。 ・本文中の文法事項を理解し、さらに本文で使用されている以外の使われ方の知識を得ている。		・現代語訳する際の注意点を踏まえて、文脈や背景に沿った適切な現代語訳をしている。 ・作者の意図を正確に理解することができる。		・発表や討論を通して自分の考えをさらに深めようとしている。 ・授業で扱った教材以外の文学史等における知識を身に付けている。
	B	・本文中の古文重要語句の意味や用法を理解している。 ・文章の展開の仕方について理解している。 ・本文中の敬語などの文法事項を理解している。		・現代語訳する際の注意点を踏まえて本文を逐語訳している。 ・作者の意図を大まかに理解することができる。		・文章にまとめようとしている。 ・授業で扱った教材に関する文学史的な知識を身に付けている。
	C	・本文中の古文重要語句の意味や用法を理解していない。 ・文章の展開の仕方について理解していない。 ・本文中の文法事項を理解していない。		・現代語訳する際の注意点を踏まえて本文を逐語訳していない。 ・作者の意図を理解していない。		・文章にまとめようとしていない。 ・授業で扱った教材に関する文学史に興味を持たない。

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	公民	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	公共	担当者	辻 眞		
使用教材	教科書 公共（実教出版）				
	資料集 ニュービジョン 公共（浜島書店）				
学習目標	1 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。				
	2 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。				
	3 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通してかんようされるべき、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める				
学習方法	授業を大切にすること				
	1 〔教科書の熟読、作業の丁寧さ、プリント・資料集の活用〕				
	2 テスト前に試験範囲は完璧に学習して仕上げる。 〔1～2週間前から教科書・ノート・プリントなどで丁寧に復習する。〕				
必ず取り組む最小目標	授業に臨む際には、生徒として最低限の義務を果たす。 〔居眠りをしない。私語を慎む。欠席数は充分注意すること。授業に必要な教材教具の用意、授業ノートの作成、配布プリントのファイル化、提出物の厳守〕				
実現したいと思う最大目標	現代の諸課題に対して、考察・選択・判断する能力を身に付け、日本の将来・未来により良い考えと行動が発揮できる人材となる。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題 ・小テスト	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめることができる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に関いて解決することができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に関いて解決しようとする	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	
	C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスをあれば課題をグループとともに解決することはできる	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地歴公民		学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	地理探究		担当者	辻 眞		
使用教材	教科書：新詳地理探究(帝国書院)					
	地図帳：新詳高等地図（帝国書院）					
	資料集：新詳地理資料 COMPLETE 2023(帝国書院)					
学習目標	地理総合での学習を踏まえ、最新の世界情勢や学術動向をより深く理解し、現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。					
学習方法	1 授業を大切に積極的に取り組み、重要な知識の定着に心がける。また、課題にしっかり取り組み、忘れずに提出する。					
	2 暗記だけでなく、グラフを分析したり地図の読図・作図などができることが重要である。わからない地名などが出てきたときには地図帳で調べることが大切である。					
	3 世界諸地域の生活・文化及び地球的課題を理解するためにも、新聞やテレビ等から積極的に情報を得ようとする姿勢が大切である。					
必ず取り組む最小目標	生徒として最低限の義務を果たすことができる。(1)出席する(2)私語・居眠りをしない(3)チャイム前着席・授業の準備を忘れない(4)ノートやプリントの記入は丁寧に行う。					
実現したいと思う最大目標	地球市民として「異文化の尊重」と「国際協力の推進」のために、(1)多文化共生(2)持続可能な開発(3)人権尊重(4)公正さなどの実現をめざして積極的に関わっていこうとする態度を身につける。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	定期考査、課題、小テスト		定期考査、課題		学習活動状況、課題
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる		①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる		①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる		①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている		①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする
C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる		①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる		①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	地理歴史	学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	日本史探究	担当者	鶴身 幸一		
使用教材	教科書 高等学校 日本史探究 新視点による日本通史とアジア・世界（清水書院）				
	史料集 図説 日本史通覧（帝国書院）				
学習目標	1 我が国の歴史の展開に関する諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解し、調査や諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる。				
	2 我が国の歴史の展開に関する事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、歴史的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察、構想、表現する。				
	3 我が国の歴史の展開に関する諸事象について、よりよい国家や社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、我が国や他国の伝統や文化を尊重する。				
学習方法	授業を大切にすること 1 〔教科書の熟読、作業の丁寧さ、プリント・資料集の活用〕				
	2 テスト前に試験範囲は完璧に学習して仕上げる。 〔1～2週間前から教科書・ノート・プリントなどで丁寧に復習する。〕				
必ず取り組む最小目標	授業に臨む際には、生徒として最低限の義務を果たす。 〔居眠りをしない。私語を慎む。欠席数は充分注意すること。授業に必要な教材教具の用意、授業ノートの作成、配布プリントのファイル化、提出物の厳守〕				
実現したいと思う最大目標	日本の歴史について学ぶことで、日本の将来・未来により良い考えと行動が発揮できる人材となる。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題 ・小テスト	・定期考査への取り組み状況 ・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	①積極的に意見を述べ仲間と学習できている ②気がついたことがあればノート・メモを取るなど記録することができる ③ポイントを選び、自分なりにまとめをすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、仲間にわかりやすく表現できる ②課題を解決できる	①興味や関心があることに取り組むことができる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決することができる	
	B	①話している人を見て、うなずくなど反応しながら話を聞いている ②黒板に書かれていることに加えて、ポイントをメモすることができる	①理解したことをもとに自分の意見を持ち、表現できる ②課題を見つけ、解決方法を見つけようとしている	①毎日、学習した内容を復習できる ②わからないことや気になることを調べたり、教員や仲間に聞いて解決しようとする	
	C	①話している人を見て話を聞いている ②黒板の内容をノートに取ることができる ③提出物を期日まで提出できる	①アドバイスがあれば意見を持つことができる ②アドバイスがあれば課題をグループとともに解決することはできる	①考査前は学習した内容を復習できる ②提出物を期日まで提出できるように取り組める	

令和6年度 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数 学		学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	数学Ⅱ		担当者	石黒雄佑・持田裕孝		
使用教材	東京書籍 数学Ⅱ Standard					
	東京書籍 WIDE Ⅱ+B Standard Buddy					
学習目標	1 整式の性質を理解し、3次式以上の整式の展開や因数分解、整式の除法について理解をする。 また、証明の流れを理解し論理的な証明ができる。					
	2 複素数まで数の範囲を広げ、2次方程式について理解を深め、高次方程式を解くことができる。					
	3 図形の性質を座標平面上で考えることができる。					
	4 三角関数、指数関数、対数関数の性質を理解する。					
	5 微分法・積分法を計算問題で終わらせることなく、視覚的なものにも着眼して学習する。					
学習方法	1 授業ではノートをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むように努力すること。					
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、宿題＋小テストに毎回取り組み、副教材などで繰り返し復習し実力を高めること。					
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。					
必ず取り組む 最小目標						
実現したいと 思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・自発的なノート提出	
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。		数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 積極的に評価・改善しようとしたりしている。	
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。		数学のよさを認識し, 数学を活用しようとしたり, 数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようとしたりしている。	
	C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。		数学のよさを認識しようとしせず, 粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようしない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようしない。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	数 学	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	数学B	担当者	石黒雄佑・高松朋亮		
使用教材	数学B Standard （東京書籍）				
	Standard Buddy WIDE 数学Ⅱ＋B				
学習目標	1 簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。				
	2 確率変数とその分布、統計的な推測について理解し、それらを不確定な事象の考察に活用できるようにする。				
	3				
学習方法	1 授業ではノートをきちんとまとめ、プリント等の配布物をきちんと提出し、積極的に授業に取り組むように努力すること。				
	2 数学は積み重ねが大切な教科ですので、宿題＋小テストに毎回取り組み、副教材などで繰り返し復習し実力を高めること。				
	3 長期休業中の課題で、それまで学習したことをしっかり復習すること。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査, 課題 ・休み明けテスト ・小テスト, 単元テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況	
	A	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に深く理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を十分身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を十分身に付けている。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようしたり, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 積極的に評価・改善しようしたりしている。	
	B	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	数学を活用して事象を論理的に考察する力, 事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	数学のよさを認識し, 数学を活用しようしたり, 数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようしたりしている。	
	C	数学における基本的な概念や原理・法則を理解していない。事象を数学化したり, 数学的に解釈したり, 数学的に表現・処理したりすることができない。	数学を活用して事象を論理的に考察することができない。事象の本質や他の事象との関係を認識できない。数学的な表現を用いることができない。	数学のよさを認識しようせず, 粘り強く考えたり数学的論拠に基づいて判断したりしようしない。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善しようしない。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	物理基礎		担当者	皆川 洋		
使用教材	物理基礎(数研出版)					
	リードLightノート 物理基礎					
学習目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。					
	2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。					
	3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。					
	4					
学習方法	1 授業前に教科書を読み、重要語句・中学校での既習事項を確認する。					
	2 授業では、板書を写すことにとどまらず、計算過程や式の変形の過程を自分自身で繰り返し、理解を深める。					
	3 問題集を解き、理解度を確認する。小テストごとに復習する。プリントの発展的な問題にも積極的に取り組もう。					
必ず取り組む最小目標	1時間のノートは、その時間に自分で書くこと。休んだ場合は、速やかに人から借りて写しておくこと。					
実現したいと思う最大目標	地球を守る意識を持つ					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	・定期考査 ・単元テスト・小テスト ・実験	・定期考査 ・課題の取り組み状況 ・実験レポート		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況 ・その他	
	A	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究している。	
	B	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。あるいは、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。		自然の事物・現象に主体的に関わっている。あるいは、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	C	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解していない。科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けていない。	自然の事物・現象から問題を見いだせない。見通しをもって観察、実験などを行っていない。得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究していない。		自然の事物・現象に主体的に関わっていない。見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしていない。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	理科	学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	生物	担当者	森 秀夫 ・ 高橋 玲美		
使用教材	生物(実教出版)				
	アクセスノート生物(実教出版) ※Libry版を購入				
	サイエンスビュー生物(実況出版)				
学習目標	1 生物や生物現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、生物学的に探求する能力と態度を育てる。				
	2 生物や生物現象についての基本的な概念や原理・原則を理解し、科学的な自然観を育成する。				
	3 自然に対する総合的な見方を養う。				
学習方法	1 授業に集中し、板書を書き写すのみならず、説明をよく聞き、内容を理解する。				
	2 小テストや定期考査に向けて、家庭学習に取り組み、基礎知識を固める。				
	3 問題集などでの復習に努め、より多様な観点から、生物の成り立ちや制御のしくみ、行動等を理解する。				
必ず取り組む最小目標					
実現したいと思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	小テスト 定期考査 実験	定期考査 課題プリント		ノート・プリント ペアワーク・グループワーク
	A	生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけているとともに、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を習得している。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができ、生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することができる。		生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。
	B	生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を概ね身につけているとともに、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能を概ね習得している。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることが概ねでき、生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することが概ねできる。		生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとして概ねしている。
	C	生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則の理解がなく、科学的な自然観や、自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけておらず、生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、観察・実験の技能も習得していない。	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえることができず、生物現象について探究する場合に、それらを個々のレベルで分析すると同時に、全体を総合的にとらえ、表現することもできない。		生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとしていない。

教科名	保健体育	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	体育	担当者	市山貴一・加藤武志・豊田裕子・奥 恭平		
使用教材					
学習目標	1 運動の多様性・体力の必要性を理解し、それらの技能を身に付け、活用する力を養う。 2 課題の発見・解決のために思考、判断するとともに、それを他者に伝える力を養う。 3 公正・協力・責任・参画などの意欲を育て、生涯にわたり継続的に運動に親しむ資質・能力を養う。				
学習方法	1 積極的に授業に参加し、その種目の知識や技能、そして安全について理解する。 2 自己やチームについて課題の発見と解決を目指し、周囲とコミュニケーションをとりながら練習や試合の工夫に取り組む。 3 ペアワークやグループワークにより、身体活動と共に、言語活動が活発になるよう積極的に取り組む。				
必ず取り組む 最小目標					
実現したいと 思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	学期末・学年末の学業成績の評価・評定は学習指導要領の各教科の評価の観点及びその趣旨や特性を踏まえて、観点別評価をし、総合的に判断して行う。 ①評価の主な観点(3観点)は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」とする。 ②前・後期末の成績は、3観点評価及び5段階評価を行う。 ③学年末の成績は、その年度分を総合的に評価し、3観点評価及び5段階評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	評価 方法	・技能テスト ・ルールテスト ・観察	・ワークシート ・グループ活動の取り組み状況	・学習活動への取り組み状況	
	評価基準は次のページに記載				

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	保健体育	学年	2 学年	単位数	1 単位
科目名	保健	担当者	奥 恭 平		
使用教材	大修館書店 現代高等保健体育(保体701)				
学習目標	1 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、技能を身に付けるようにする。				
	2 健康についての課題を発見し、解決に向け計画的に行動できるような思考・判断できる力を養う。				
	3 健康について、課題の解決を合理的にするため、状況に応じ他者に伝える力を養う。				
	4 生涯を通じて、健康の保持増進や環境づくりを目指し、活力ある生活を営む態度を養う。				
学習方法	1 自分自身の健康管理について理解し、課題発見と解決に向け主体的に取り組む。				
	2 時間毎の口頭質問や、単元毎の小テストを行うことで、理解を深められるよう積極的に取り組む。				
	3 ペアワークやグループワークにより、言語活動が活発になるよう積極的に取り組む。				
必ず取り組む 最小目標					
実現したいと 思う最大目標					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	学期末・学年末の学業成績の評価・評定は学習指導要領の各教科の評価の観点及びその趣旨や特性を踏まえて、観点別評価をし、総合的に判断して行う。 ①評価の主な観点(3観点)は、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」とする。 ②前・後期末の成績は、3観点評価及び5段階評価を行う。 ③学年末の成績は、その年度分を総合的に評価し、3観点評価及び5段階評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査, 課題 ・小テスト	・定期考査 ・課題の取り組み状況		・学習活動への取り組み状況 ・課題提出状況
	A	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、必要な言語や知識などについて深く理解し、言ったり書いたりすることができる。	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、原則や概念を基に整理したり、自他や社会の課題を発見し、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど筋道を立てて説明している。		・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組んでいる。
	B	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、必要な言語や知識などについて理解し、言ったり書いたりすることができる。	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、原則や概念を基に整理したり、自他や社会の課題を発見し、その解決方法や選択した理由などを話し合ったり、記述するなど概ね筋道を立てて説明している。		・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、課題の解決に向けた学習に取り組もうとしている。
		・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、必要な	・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、原則や		・生涯を通じる健康や、健康を支える環境づくりのために、課題の

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	芸術		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	音楽Ⅱ		担当者	辻 正博		
使用教材	高校生の音楽 2(教育芸術社)					
	改訂 音楽通論					
	各楽器ごとの楽譜					
学習目標	1 様々な音楽を理論も含めて総合的に学習することによって、生涯にわたって音楽を愛好しようとする心情を育てます。					
	2 器楽などの表現する活動や音楽を鑑賞する活動を通して、自己を表現する力や音楽の良さを感じ取る力を伸ばします。					
	3 我が国や諸外国の音楽の学習を通して、世界の音楽芸術・文化の良さを認め合う心情を育てます。					
	4					
学習方法	1 主に器楽演奏を中心に実技・実習を行います。(楽器の選択肢は限られます)					
	2 自主的に課題を見つけ解決していくことと、練習に集中する忍耐力が必要です。					
	3 機会を捉えて、様々な音楽に関わるDVDの鑑賞を行います。					
必ず取り組む最小目標	楽典・器楽演奏(独奏・アンサンブル)・演奏発表会					
実現したいと思う最大目標	学習内容の定着、各楽器の奏法等の習熟・個々の演奏に取り組む楽曲に対する理解					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	筆記試験や実技試験、発表会を通してこれまで学んできた成果を評価します。		筆記試験や実技試験、発表会を通してこれまで学んできた成果を評価します。		授業中における取組状況や態度、課題提出状況などにより評価します。
	A	楽譜・楽典について深く理解した。 音楽史・作品・背景などを深く理解した。 歌唱・器楽演奏能力が著しく向上した。		題材に対して深く考えた。 歴史や背景をよく理解した。 演奏する曲(楽譜)に対して深く理解し、演奏の表現に十分つなげることができた。		深く楽しんでできた。 広く協力しておこなった。 より集中してできた。
	B	楽譜・楽典について理解した。 音楽史・作品・背景などを理解した。 歌唱・器楽演奏能力が向上した。		題材に対してよく考えた。 歴史や背景を理解した。 演奏する曲(楽譜)に対して理解し、演奏の表現につなげることができた。		楽しんでできた。 協力しておこなった。 集中してできた。
	C	楽譜・楽典について理解しなかった。 音楽史・作品・背景などを理解しなかった。 歌唱・器楽演奏能力が向上しなかった。		題材に対してよく考えなかった。 歴史や背景からの理解しなかった。 演奏する曲(楽譜)に対して理解が深まらず、演奏の表現に至らなかった。		楽しくなかった。 協力しなかった。 集中できなかった。

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語	学年	2 学年	単位数	3 単位
科目名	英語コミュニケーションⅡ	担当者	原林・小泉		
使用教材	Grove English CommunicationⅡ(文英堂)				
	E-learning(SW/単熟語スタンダード)				
学習目標	1	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話しの展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。			
	2	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。			
	3	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の文で詳しく話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。			
	4	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の文で詳しく話して伝えることができる。			
学習方法	1	プリントによる課題・・・ 予習(①新出単語・熟語の意味調べ ②本文の全訳) 授業(①チャンク分け ②ワークシートの記入 ③音読 ④穴埋めシート) 復習(①本文の全訳確認 ②音読練習)			
	2	新出語の意味確認・発音練習 → 本文の内容理解(文法事項も含む) → 本文の音読練習 → 本文の暗誦			
	3	小テスト(E-learningを利用したの単語学習)			
必ず取り組む 最小目標	E-learningを利用したの単語学習を80パーセント以上取り組む				
実現したいと 思う最大目標	毎日英語学習に取り組み、身近な事柄を英語で表現できるようにする。 英語検定の上位級(準2級・2級)に合格する。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	評価 方法	定期テスト 単語テスト		定期テスト E-learning音読テスト	E-learning ワーク提出 課題提出
	A	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を身に付けている。 得点率80%以上		日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理的に注意して表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。 得点率80%以上	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとしたり伝え合おうとする態度を身に付けている。 得点率80%以上 提出物完全期限内提出
	B	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を概ね身に付けている。 得点率50%～79%		日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理的に注意して表現したり伝え合ったりする力を概ね身に付けている。 得点率50%～79%	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとしたり伝え合おうとする態度を概ね身に付けている。 得点率50%～79% 提出物期限を過ぎた課題あり
C	外国語の音声や語彙、表現、文法の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと[やりとり]、話すこと[やりとり]、話すこと[発表]、書くことにおいて、目的や場面、状況などに応じて、多様にかつ自在に活用する技能を身に付けていない。 得点率49%以下		日常的な話題や社会的な話題について、読んだり聞いたりした情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて論理的に注意して表現したり伝え合ったりする力を身に付けていない。 得点率49%以下	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に情報や自分の考え・気持ちなどを論理的に注意して詳しく表現しようとしたり伝え合おうとする態度を身に付けていない。 得点率49%以下 提出物未提出の課題あり	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	外国語		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	論理・表現 I		担当者	原林有里		
使用教材	Vision Quest English Logic and Expression I					
	E-learning(SW/単熟語スタンダード)					
学習目標	1 ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、発表することができる。 ・英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら話すことができる。					
	2 ・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどの概要をとらえることができる。 ・事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどの要点や詳細をとらえること					
	3 ・説明や物語などを読んで、情報や考えなどの概要をとらえることができる。 ・事実と意見などを区別して読むことができる。 ・説明や物語などを、聞き手に伝わるように音読することができる。 ・内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら読むことができる。					
	4 ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔な文章を書くことができる。 ・内容の要点を示す語句や文、つながりを示す語句などに注意しながら書くことができる。					
学習方法	1 予習:E-learningで文法学習をする 授業:表現活動 復習:表現をさらに深める					
	2 有名スピーチを暗唱し、筆記できるようにもする。					
	3 パフォーマンステストにて、英語のやりとりができるようにする。					
必ず取り組む最小目標	E-learningを利用しての単語学習を80パーセント以上取り組む					
実現したいと思う最大目標	毎日英語学習に取り組み、身近な事柄を英語で表現できるようにする。 英語検定の上位級(準2級・2級)に合格する。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	定期テスト 単語テスト	定期テスト E-learning作文 パフォーマンステスト		E-learning パフォーマンステスト	
	A	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。 得点率80%以上	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。 得点率80%以上		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。 得点率80%以上 提出物完全提出	
	B	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を概ね身に付けている。 得点率50%～79%	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を概ね身に付けている。 得点率50%～79%		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を概ね身に付けている。 得点率50%～79%	
	C	外国語の音声や語彙、表現、文法言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けていない。 得点率49%以下	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けていない。 得点率49%以下		外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けていない。 得点率49%以下	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	英語	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	英語研究	担当者	田中 秀治		
使用教材	・A Wonderful World HOKKAIDO new edition				
	・ICT教材 Brains e-learning				
学習目標	1 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。				
	2 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。				
	3 情報や相手の意向などを理解したり自分の考えなどを表現したりする実践的なコミュニケーション能力を養う。				
	4				
学習方法	1 北海道についての説明文を英語で理解する。				
	2 身近なテーマを決めて、探究し、英語で発表できるようにする。				
	3 発表された内容について、共有し、英語でのやり取りができるようにする。				
必ず取り組む最小目標	身近なテーマを定めて、英語での発表をする。				
実現したいと思う最大目標	身近なテーマから、世界的な問題に繋げて、自分の言語能力を高め、ネット上で海外の人と交流を図る。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	単語テスト 音読テスト SWテスト	英作文 Speakingテスト 探究発表		探究活動 ICT教材
	A	80%以上の点数	作文においては、論理的に分かりやすく書かれている。 Speakingテストにおいて、論理的に分かりやすく話すことができる。		積極的に探究し、発表活動に向けて努力し、それを表現している。
	B	50～79%の点数	作文において、多少間違いはあるが、内容は伝わる。 Speakingテストにおいて、多少の間違いはあるが、内容が伝わる。		探究活動に対する取り組みに不十分な点はあるが、発表活動を行うことができる。
	C	49%以下の点数	作文において、間違いが多すぎて、内容が伝わらない。 Speakingテストにおいて、支離滅裂で全く伝わらない。		探究活動に対する取り組みが不十分で、発表できる内容がない。

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	家庭科		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	家庭基礎		担当者	小 林 郁 美		
使用教材	教科書「家基705家庭基礎 気づく力築く未来」					
	資料集「生活ハンドブック」					
学習目標	1 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。					
	2 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。					
	3 ささまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。					
	4					
学習方法	1 教科書、資料集、ワークシート、タブレットを使用し、教室で授業、グループワークなどを行う。					
	2 食生活については、学んだ内容をもとに調理室において調理実習を行う。					
	3 衣生活など必要に応じて、被服室においてモニターや教材を使用しグループワークを行う。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	定期考査 ワークシート 実習	定期考査 ワークシート 実習		定期考査 ワークシート 実習	
	A	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を記述できる。		さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	
	B	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについておおむね理解している。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を考えて記述できる。		さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	
	C	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解が不十分である。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題をまとめることができない。		さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践できることを考えさせる。	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	家庭科		学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	フードデザイン		担当者	小 林 郁 美		
使用教材	教科書「フードデザイン」(実教出版)					
	資料集「生活ハンドブック」(第一学習社)					
学習目標	1 栄養, 食品, 献立, 調理, テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに, 関連する技術を身に付けるようにする。					
	2 食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し, 食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。					
	3 食生活の充実向上を目指して自ら学び, 食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
学習方法	1 教科書, 資料集, ワークシート, タブレットを使用し, 教室で授業, グループワークなどを行う。					
	2 学んだ内容をもとに調理室において調理実習を行う。					
	3 学んだ内容をもとに, 校内校外において探究活動を行う。					
必ず取り組む最小目標						
実現したいと思う最大目標						
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階で評定を行う。					
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	評価方法	栄養, 食品, 献立, 調理, テーブルコーディネートなど, フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し, 実践できる技術を習得している。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め, 食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに, 家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって, 課題を解決できる。		人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために, 進んで学ぶ姿勢を持ちつつ, 食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて, 主体的に計画・実践することができる。また, 習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより, 食育の推進に他と協働して取り組むことができる。	
	A	栄養, 食品, 献立, 調理, テーブルコーディネートなど, フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解を深め, 実践できる技術を習得している。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め, 食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに, 家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって, 課題を解決する力がある。		人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために, 進んで学ぶ姿勢を持ちつつ, 食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて, 主体的に計画・実践することができる。また, 習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより, 食育の推進に他と協働して取り組むことができる。	
	B	栄養, 食品, 献立, 調理, テーブルコーディネートなど, フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し, 実践できる技術を習得している。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め, 食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに, 家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって, 課題を解決しようとしている。		人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために, 進んで学ぶ姿勢を持ちつつ, 食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて, 主体的に計画・実践しようとしている。また, 習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより, 食育の推進に他と協働して取り組もうとしている。る。	
	C	栄養, 食品, 献立, 調理, テーブルコーディネートなど, フードデザインに必要な要素を相互に関連付けての理解が不十分で, 実践できる技術の習得が不十分である。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め, 食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに, 家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって, 課題解決が不十分である。		人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために, 進んで学ぶ姿勢を持ちつつ, 食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて, 主体的に計画・実践することが不十分である。また, 習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用し, 食育の推進に他と協働して取り組むことが不十分であ	

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	商 業	学年	2 学年	単位数	2 単位
科目名	情報処理	担当者	横田 たき子		
使用教材	情報処理(実教出版)				
	情報処理技能検定試験 表計算2・準2級 問題集				
学習目標	1 実社会で利用されている情報の意義や役割を理解して、自らも積極的に活用する態度を身に付ける。				
	2 ビジネスの諸活動で使用されている文書や書類の種類と形式を理解し、適切な文書が作成できるようにする。				
	3 実習の中で、効率の良い作業方法を探求し、また常に正確な処理を心掛ける姿勢を身に付ける。				
学習方法	1 自分の理解を補うために、積極的にメモをとりながら授業を受けましょう。				
	2 授業中に行う実技課題について、授業で仕上げられない場合には昼休みや放課後の時間を使い、締め切りの期日を守って完成させること。				
	3 毎時間の授業を大切にし、復習課題は期限を守ってしっかりと取り組みましょう。				
必ず取り組む最小目標	課題は丁寧に取り組む。日検情報処理検定準2級取得する。				
実現したいと思う最大目標	授業で得た知識と技術を生かして情報を適切に扱い、作業を正確、効率的に行いながら、わかりやすい文書作成のために改善していく姿勢を身につける。				
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。				
	観点	知識・技能	思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・課題 ・小テスト	・課題 ・小テスト ・取り組み記録		・課題 ・小テスト ・取り組み記録
	A	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている		企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、情報を適切に扱うことに主体的に取り組み、評価・改善している。
	B	企業において情報を扱うことについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術をおおむね身に付けている。	企業において情報を扱うことに関して理解し、ビジネスに携わる者として課題を解決しようとしている		自ら学び、情報を適切に扱うことに主体的に取り組もうとしている。また、自己の技術向上のために自ら改善しようとしている。
	C	企業において情報を扱うことについての知識と、関連する技術を身につけていない。	企業において情報を扱うことに関して思考していない。また、ビジネスに携わる者として課題の解決に取り組もうとしていない。		自ら学ぼうとせず、自己の技術向上のための改善をしようとしていない。

令和6年度(2024年度) 北海道芽室高等学校 学習指導計画

教科名	商 業		学年	2 学年	単位数	4 単位
科目名	簿記		担当者	横田 たき子		
使用教材	高校簿記					
	スピードマスター精選簿記演習					
	全経簿記検定試験PAST 3級(9月から使用予定)					
	完全分類全経2級商簿(11月後半から使用)					
学習目標	1	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。				
	2	(2)取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。				
	3	(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
学習方法	1	自分の理解を補うために、メモを取るなどしながら積極的な態度で授業を受けましょう。				
	2	小テストで理解度と学習成果を確認します。学習方法を見直し、改善を繰り返しましょう。				
	3	復習(問題練習)が欠かせない科目です。自分で判断しながら、しっかり取り組みましょう。				
必ず取り組む最小目標	課題は丁寧に取り組む。 全経簿記検定3級を取得に向けて努力する。					
実現したいと思う最大目標	実務社会でも通用するよう、簿記会計の全体構造を理解する。簿記会計の学習から、企業の経済活動の理解を深める。					
評価の方法 及び 評価基準 ルーブリック	次の3つの観点に基づき観点別に3段階A、B、Cで評価を行う。それらを総括して前期末・後期末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、10段階「10」～「1」で評価を行う。また、それらを総合して学年末に観点別に3段階A・B・Cで評価を行うとともに、5段階「5」～「1」で評定を行う。					
	観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	評価方法	・定期考査 ・課題 ・小テスト		・定期考査 ・課題 ・小テスト		・課題 ・小テスト
	A	簿記を体系的に理解して取引を正確に記録することができ、決算書を作成するために必要な知識・能力が身についている。また、簿記の理論が実務の場面に即した理解となって身についている。		取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と実務に適用することにもなる課題を見いだすとともに、工夫してよりよく課題に対応する力が身についている。		簿記について、みずから学ぶ姿勢をもち、学習法を改善しながら適正な取引の記録と財務諸表の作成法を身につけ、積極的に取り組む態度が身についている。
	B	簿記の取引を適切に記録・処理する知識と技能がおおむね身についている。		取引の記録と財務諸表の作成の方法としくみを理解し、正確でわかりやすい業務のために、処理方法をより良く工夫することができる。		簿記について、目標を持って学習し、小テストなどをとおして自らの学習法を振り返り、改善しようとしている。
C	各帳簿の役割や取引を適切に処理する知識が身についていない。		取引の記録と財務諸表の作成に関し、見やすく正確な処理に努めようとしない。		簿記の学習に対して目標を持たず、学習法の振り返りや改善をしようとしない。	